

技術部への期待

著者	伊東 幸宏
雑誌名	技術報告
巻	21
ページ	none-none
発行年	2016-03-30
出版者	静岡大学技術部
URL	http://doi.org/10.14945/00009486

技術部への期待

静岡大学学長 伊東幸宏

昨年は静岡キャンパスにおいて技術報告会 20 回をお祝いして挨拶させていただきました。本年は、浜松キャンパスでの開催に東海地区近隣の大学から多数のご発表とご参加を頂き盛会に開催いたしました。脈々と受け継がれる技術報告会の「系譜」を頼もしく思っております。

「系譜」と言えば本学が未来への指針として掲げている「自由啓発・未来創成」という理念を思い浮かべます。「自由啓発」とは、本学の前身のひとつである浜松高等工業学校から受け継がれた理念でして、自由な風土の中で自律的に学問を追究していくという、学びの姿勢が示されています。その考えを発展的に継承し、未来への想いを込めたのが「自由啓発・未来創成」という理念です。この理念は学生だけでなく教員や職員にも共有され、静岡大学の教育や研究の取り組みの中で技術部の活動にも生きているのを感じています。

第 21 回技術報告会では若手の技術職員が多く発表されており、伸び伸びと未来へむかう力を感じとり大変心強く思いました。スポーツの世界でも若返りをスムーズに成功させているチームは、安定した成功をおさめております。若手は意欲を前面に押し出して、ベテランがこれまでの経験を生かして彼等をまとめるとき、計り知れない力を発揮するものです。静岡大学技術部もこのような組織であって欲しいですし、それが静岡大学を支える底力になると確信しております。

全学技術部発足から 4 年が経過しようとしており「業務の見える化」と「全学支援」という技術部当面の目標が全学に浸透しつつあります。大学運営の様々な場面でも「技術部」というキーワードを目にするようになり、第 3 期中期目標・中期計画にも技術職員の業務体制の見直しと活性化が盛り込まれています。この変革は特にこれからの世代が自ら変化し、成長すること、自身の業務と専門をしっかりと自覚し主体的に行動する事を求めています。

大学内で教員、事務と共にある技術部が学部・学科・部局にとらわれない真の全学支援体制を実現するために必要な変革を早期に実現することを期待します。